

大阪府PTA協議会

第20回 広報紙コンクール表彰式

広報紙づくり講習会

日時：令和6年5月11日（土）

13：45～16：30

会場：大阪府教育会館 たかつガーデン
オリーブ

◆◆ 次 第 ◆◆

1. 開会あいさつ

2. 広報紙コンクール表彰式

(1) 表 彰

(2) 講 評

大阪府PTA協議会 広報紙コンクール選定委員
ジャーナリスト 細見 三英子

3. 広報紙づくり講習会

大阪府PTA協議会 広報紙アドバイザー

立石 隆則

4. 閉会あいさつ

令和5年度 大阪府PTA協議会
第20回 広報紙コンクール 入賞団体



《 印刷部門 》

◆幼稚園の部◆

金賞 豊能町立 ひかり幼稚園PTA 「たんぼぼ」

◆小学校の部◆

金賞 ☆泉大津市立 穴師小学校PTA 「forêt(フォレット)」

銀賞 ☆堺市立 野田小学校PTA 「広報 のだ」

銅賞 ☆豊中市立 桜井谷小学校PTA 「さくらいだに」

部門賞

Reborn賞 ☆堺市立 上野芝小学校PTA 「すまいる」

表紙賞 ☆東大阪市長 藤戸小学校PTA 「ふじとPTA新聞」

忘れないなんよこ賞 ☆和泉市立 南横山小学校PTA 「なんよこひろば」

◆中学校の部◆

金賞 ☆吹田市立 第一中学校PTA 「吹田一中」

銀賞 ☆豊能町立 東能勢小中学校PTA 「The ひがしのせ Times」

銅賞 ☆堺市立 庭代台中学校PTA 「スマイル」

部門賞

maboroshi賞 ☆和泉市立 南池田中学校PTA 「まほろば」

彩(いろどり)賞 箕面市立 彩都の丘学園PTA 「丘からの風」

◆PTA協議会の部◆

金賞 和泉市PTA協議会 「和泉市PTAだより」

銀賞 貝塚市PTA協議会 「つくし」

《 WEB部門 》

金賞 ☆東大阪市長 長堂小学校PTA 「ちょうどうPTAだより」

銀賞 ☆泉大津町立 穴師小学校PTA 「PTA PAPER(PTAだより)」

※印刷部門の小学校入賞の6校・中学校入賞の内4校、WEB部門入賞の2校(☆印)は(公社)日本PTA全国協議会広報紙コンクールに推薦いたします。

令和5年度		応募数	入賞数
印刷部門	幼稚園	1	1
	小学校	22	6
	中学校	12	5
	協議会	2	2
WEB部門		2	2

令和5(2023)年度 広報紙コンクールの審査に参加して

ジャーナリスト 細見 三英子

大阪府広報紙コンクールは20回を数えました!

小学5年で学級新聞作りに魅了されて以来、新聞一筋に生きてきたわたしは、立石先生からのお誘いを受け、審査のほとんどに関わらせていただきました。

この20年を振り返っても、家庭と学校、地域をつなごうという熱い思いで始まった広報紙作りは、その後、少子化と学校再編、あるいはコロナ禍と逆風にさらされました。昨今は活字離れ(ビジュアル偏重)やSNS(ソーシャル・ネットワーク・システム)が社会全体を覆うようになり、暮らしや教育のあり様も大きく影響を受けています。

でも、この間、広報紙の制作担当者は年々変わるけれど、彼ら彼女たち(おそらく数千人?)の熱い思いは確実に受け継がれているようで、そのおかげか、わたしは審査会でいつもリ・チャージされて元気をもらっています。

【中学校の広報紙から】

- 大規模校ゆえの盛りだくさんの内容をきっちりと公正に整理して、しかも読みやすい。レイアウトをする前に、手元の素材にしばし気持ちを寄せるといったひと手間が感じられました。
- こちらも盛りだくさんの内容。でも、紙面の余白に「制服をリサイクルしよう」の記事。加えて“止めてくれるな、おっかさん”ばりの、クラスごとの応援旗の羅列。学校と社会が青春を媒介につながっていて、いいなあと思いました。
- 「近ごろ、息子はちっとも話してくれない」と嘆いていたお母さんは、カメラを手に学校行事を取材。すると息子の笑顔がいっぱい撮れて「委員やって、よかったあ」と書いています。
- 小規模校や、1年生から9年生が学ぶ一貫校でも、それぞれの学年をしっかりと見ながら、かつ連携を深める工夫が感じ取れました。学校運営協議会をつくって話し

合いを深めたり、生徒会とPTAがテーブルをはさんで話し合う機会を作った学校もありました。生徒会の表情がさわやかです。

【小学校の広報紙から】

- ある学校は「広報紙の灯を消さない」という強い思いで集まり、「とにかくやれることをやろう」と意思統一。レイアウトや企画性はもちろんですが、記事の「内容」にその思いがあふれていました。
- 長い歴史を持つ学校は、インタビューやモノクロ写真を探し出してきて読ませます（見せます）。地域のあちこちを散策しやすいように紹介して、地域愛がしのばれます。
- 表紙に「給食ありがとう」の大きな見出しと、おいしそうな献立の写真、材料の紹介。引き込まれて頁をめくると、調理員さん紹介と調理工夫のインタビュー。家庭でも応用できそう。みんなを引き付けるパーフェクトな仕上がりでした。
- ところで、ビジュアル中心の作品の中で、あえてモノクロ紙面で読ませる作品が数点ありました。これが実に新鮮で、思わず読み込んでしまう。特に「ほっこりエピソード」コーナーには、大いに癒されました。やっぱり活字。15世紀グーテンベルクさんはどんな思いで活版印刷を発明したのか、図書館で調べたくなりました！
- ある広報紙に「夫婦で会長を務めます」という新学期の挨拶文が、夫さんからありました。どういうこと？と読んでいくと、確かに妻さん（パートナー）は卒業式の挨拶を担当。会長職の共同参画で、これもいいかも。
- 令和7年3月に創立139年の歴史に幕を下ろすという和泉市の南横山小学校。毎年、愛と自然にあふれる光景を綴り、「ハッピーな辺地」を発信してきました。「忘れない、なんよこ」みんなの思いです。

【幼稚園・市町村PTA協議会・WEB部門】

- ・ 地域に根を下ろし、子どもの成長や暮らしを楽しむ思いがあふれています。このタネが大きく花開きますように。

入賞団体の 講評

広報紙アドバイザー 立石 隆則

《印刷部門 幼稚園の部》

金賞「たんぼぼ」 豊能町立ひかり幼稚園 PTA

手作り感と温かみ 漫画 ver.が本当に素晴らしい

園内の様子が手に取るようにわかることをコンセプトに、圧倒されるばかりのたくさんの写真で構成されています。しかし紙面がアルバム化することなく、しっかりとしたキャプションや吹き出しが理解を助けています。訴求力も素晴らしいです。シャッターチャンスを見逃さない計画的な取材が効いています。特に、4年ぶりの「夕涼み会」にかける情熱とエネルギーには感服しました。前期号巻末に挟み込まれた「PTAのおしごと 夕涼み会編 こんなふうにおすすめだよ！」の漫画 ver.がとっても楽しいです。「達者なものだなあ」とひたすら感心しています。素晴らしいタレント(才能)ですよね。そんなタレントが PTA 活動に参画してくださっていることが素敵です。「卒園・修了おめでとう」特集は、すべての子どもが主人公として輝いています。「子ども達も読みたくなるように楽しく仕上げました」(応募紙のアピール)の言葉通り、素晴らしい紙面です。

《印刷部門 小学校の部》

金賞「for e t」 泉大津市立穴師小学校 PTA

“敢えて”アタリマエを語る 勇気を出して一度やめてみる

3年連続金賞受賞。Web部門でも銀賞受賞しており、広報紙の改革から始まった穴師のPTAの組織改革は、今も進行中です。詳しい内容をまだ伝えられない状況で、ニーズに合ったPTAについて会議で話し合っていると盛大に匂わせる活動報告—必要なことは続けるし、変化が必要なものは変化させ、更新した方がよいものは更新し、今しなくてもよいと思ったものは勇気を出して一度やめてみる。今年度のPTAは“敢えて”アタリマエを語ることにしました。今の保護者や先生や子どもたちのニーズにあっているのかどうか、ということを念頭に会議で話し合っています。—この文章に私は、最大限の改革への熱意を感じました。出来事記事だけでなく、親しみやすく読み応えのある特集記事が毎号複数あるのも素晴らしい。PTA改革の実践は続きます。きちんと取材をして自前の記事を書く姿勢にジャーナリズムを感じています。

銀賞「広報 のだ」 堺市立野田小学校 PTA

紙面改善に取り組む たくさん悩んで決めたらそれが正解

年 2 回発行を 3 回にページ数も年間 24 ページから 40 ページに増やしました。タイムリーに内容を充実させて情報を伝えることができました。子どもたちの顔写真にはぼかしを入れていましたが、顔写真掲載可否のアンケートを実施し、修正なしの写真で子どもたちの様子がより伝わるようになりました。「応募紙のアピール」より）卒業記念特集の桜のコメントも子どもたちを取り巻くおとなの温かいまなざしを感じる力のこもった紙面になっています。作成時には、PTA 情報部員が 6 年生のクラスに赴いて説明しています。特集企画では、「子どもを育てるということ」のテーマで、校長先生と PTA 会長対談を実施。年度初めの紹介記事のための対談ではなく、しっかり教育的課題が語られています。紙面は全体として、とても美しい調和の取れた仕上がりです。

銅賞「さくらいだに」 豊中市立桜井谷小学校 PTA

創立 150 周年の節目 桜井谷の大先輩に聞く

1 学期号のフロントページは、150 周年の航空写真。記念事業のロゴマークもしっかり入って、充実した 1 面です。国民学校時代の先輩からの聞き取りと資料のページ。PTA 主催の自転車教室の記事。達者なイラストや似顔絵とユニークな取り組みがたくさんあって、それぞれしっかり自前の記事が書かれています。好感度は高いです。見出し、記事、それにふさわしい写真がキチンとそろっていて素晴らしいです。子ども見守り隊の連載やピオトープ完成イベント等の出来事記事、PTA 活動の報告等どれも一切手抜きがありません。紙面の色調やフォントの選択一つとっても、心地よいレイアウト・表現に徹しています。かねて交流のあるモンゴルの先生方 32 名が 150 周年記念式典に参加してくださるなど、非常に優れた取り組みがさらりと紹介される凄みを感じています。

Reborn 賞「すまいる」 堺市立上野芝小学校 PTA

十数年ぶりに PTA 新聞発行を再開しました

Reborn 賞の意味は、時代に沿った PTA をつくりたいという願いを共有した人たちが、学年委員制度を廃止し 3D 活動(できる人が、できる時に、できる事を)を標榜しながら、保護者の意見交流の場を求めて新聞づくりを進めてきた取り組みへの敬意です。自由な意見を集めるために毎号 QR コードをつけて保護者の考えを共有化しています。行事に参加した保護者に依頼して記事を書いてもらい、作り手目線だけではない、様々な視点から描かれた新聞—開かれた紙面に道を拓こうとしています。その上で、「時代に沿った PTA に変革しています。保護者の皆さん一緒に PTA しよう」と訴えることができるかを重点に工夫を重ねてこられました。当面の課題は、「PTA 加入は完全任意制に」「PTA 会費は一世帯加入制に」の 2 点。持続可能な PTA を構築するために「会費」「安全」「人材」をキーワードに上小 PTA の挑戦は続きます。

表紙賞「ふじと PTA 新聞」 東大阪市立藤戸小学校 PTA

装丁は、まんま「学習帳」です

手に取りたくなるような広報紙にするべく、学習帳風のデザインにしてあります(応募紙のアピール)。表紙の色合いもデザインのすべてが学習帳です。「年組名前」の上部の本来ならば教科名が表示されているはずの場所には「しんぶん」の文字が大きく入っています。つかみは「オッケー!!」というところでしょうか。編集上の工夫としては、行事やイベントを中心にまとめられていること、役員・委員の皆さんの活動の様子や地域の方々とのふれあい・親子のふれあいを伝えることに注力しておられます。写真の扱いにも注意され、個人情報に配慮しながら活動の雰囲気が十分伝わるように工夫されています。吹き出し風のデザインを多用することで、参加者の感想や子ども達のひとり言を分かりやすく、しっかり伝える仕掛けが用意されています。笑顔あふれる活動場面を活写した紙面です。

忘れない なんよこ賞「なんよこひろば」 和泉市立南横山小学校 PTA

自然と文化 人と人のつながり 子どもたち一人ひとりが宝物

和泉市立槇尾中学校・横山小学校・南横山小学校の3校は、25年4月から小中一貫校(義務教育学校)槇尾学園として開校することになっています。南横山小学校は、小規模特認校として和泉市全域から通学が可能。槇尾学園も特認措置を継続する予定です。蛍の鑑賞会や自然を生かした取り組みが盛りだくさん。学校内には炭焼き窯もあり、例年6年生が原木の伐採から炭焼きを行い販売するという地域の文化を学ぶ伝統継承にも積極的です。学校・地域・保護者・卒業生その他の大人たちが子ども達をまるで掌中の珠のように大切に見守り育てていることが切実に伝わってきます。広報紙は校区の隅々に配布されています。槇尾中学校・横山小学校も府Pコンクールの入賞経験があり、統合後も特色ある取り組みを伝え続けてくださることを期待しています。

《印刷部門 中学校の部》

金賞「吹田一中」 吹田市立第一中学校 PTA

独自の取材と自前の記事 大量の文字情報も

チャレンジングな紙面です。今年度も年間4号発行されました。昨年度の銅賞受賞に引き続く、栄えある金賞。年度1号目のPTA会長&校長先生の大きくレイアウトされた写真が魅力的。対談記事もしっかりとまとめられていて結構ですね。職員紹介での大きな写真。先生紹介と学年PRの大量文字情報の処理もお見事です。200号記念号の教頭先生インタビューは、人柄紹介にとどまらず「つなげるのが私の仕事」の意味がしっかり伝わってきました。一中フェスタと運動会を取り上げた3号目は、「生徒会選挙」と「一中生のネット事情」の2本の特集記事が秀逸です。特にアンケート調査のまとめに生徒指導主事の先生にインタビューしていることに好感。卒業記念号は、いつもよりしっとり分厚い紙の観音折で8ページ。3年生は圧巻の4ページ。ワイドな紙面で大変迫力がありませんでした。今年も Good Job と申し上げたいと思います。

銀賞「The ひがしのせ Times」 豊能町立東能勢小中学校 PTA

心を一つに東能勢 分離型小中一貫教育校の取り組み

小学校校舎に前期学部(1~4年生)、中学校校舎に中・後期学部(5~7年生、8・9年生)が通学する小中一貫教育校の2年目。コミュニティスクールとしても実績を積み重ねておられます。昨年度は、小学校の部で銀賞受賞。今年は中学校の部で堂々の銀賞です。前身の「ひがしのせ」(東能勢小学校 PTA)から引き続き発信力・編集力は高いです。中学校の小田恵美子校長先生が書かれた「それぞれ手にした灯りを頼りに可能性に向かって歩んでいる」—通りの実践が展開されています。「東能勢フェスタ」「とよの未来科~東能勢style~」「学校運営協議会便り」「開校準備委員会便り」と、子どもたちの様子・学校の取り組み・地域の活動をしっかり伝えていきます。PTA 活動の記事とのバランスも配慮されています。自前の記事をきちんと書くことが当たり前になっていて敬服。読み応えのある特集がいくつもあり、本当に素敵です。

銅賞「スマイル」 堺市立庭代台中学校 PTA

今年は英語?です 写真の使い方がやっぱり秀逸

庭代台の特集で毎回楽しみにしているのが、同じ構図・メンバーで撮る Then&Now です。入学直後と卒業直前に撮影するグループ写真。「みんな背が伸びて大人っぽくなったけど笑顔は変わらず輝いている」「みんなのお陰で楽しく登校できたよ」のキャプション&コメントが素晴らしい。庭代台はコンクール入賞常連校で、「写真が美しい、写真の扱いが上手」と感じてきました。ところが、何故かみなさんレモンを手にアイドルスマイルをかましている夏号表紙と職員紹介。「卒業 Song&Message」—先生方お勧めの卒業ソング特集などなど。ちょこちょこ新鮮で感動的な企画を放り込めます。毎号の表紙で、行事やクラブやいろんな取り組みの場面での子ども達が、まっすぐカメラを見つめて笑っています。それぞれの企画が秀逸。やはり写真の美しい紙面です。

maboroshi 賞「まほろば」 和泉市立南池田中学校 PTA

大人も子どもも楽しめる PTA 活動

3年連続金賞受賞の後の部門賞受賞。最初の受賞から7年。広報紙の改革に端を発した「大人も子どもも楽しめる PTA 活動」を構築する試みが続けられてきました。年4回発行で7月・12月・3月のレギュラー号及び「先生紹介特別号」で構成。一貫しているのは、「楽しんで作りたい」「自分たちも読みたいものを作りたい」。「先生紹介特別号」の表紙は、校長先生・教頭先生が、穏やかにこちらを見つめています。裏表紙には、長髪のイケメンが二人。先生の写真を AI 化してみたらイケメンが現れた—とのキャプションの後に、“maboroshi〜☆☆”部門賞の意味は、これです。教頭先生の長文コラム・教務主任の先生への拍手喝采インタビュー。卒業記念号の先生方の似顔絵を美術部員が作成。こんな編集センス、大好きです。

彩(いろどり)賞「丘からの風」 箕面市立彩都の丘学園 PTA

カラフルな個性が輝きますように

発信力・編集力は高いです。多彩な写真が掲載され、宿泊行事や校外学習、クラブ活動や普段の授業風景—子どもたちの1年間の思い出が詰まっています。彩都の丘学園は大阪府で2校目の小中一貫校として2011(平成23)年4月に開校しました。その後学園は、街(彩都西駅周辺)が大きくなると同時に、大グラウンドや西側の新校舎ができるなど成長してきました。1年目は71名だった児童生徒数は、約1600名になりました。現在、府下各地で展開されている義務教育学校・小中一貫教育の先駆けといえます。すべての学年のページにそれぞれの行事や取り組みがコンパクトにまとめられています。子どもたちの空気感を生かした写真が満載です。「先生の事、もっと知りたい!」—各学年の先生への一問一答や「先生を探せ」(ページに隠れている13人の先生を探すクイズ)等に親近感があり、とても良い企画だと思います。

《印刷部門 PTA 協議会の部》

金賞「和泉市 PTA だより」 和泉市 PTA 協議会

5年連続入賞 フロントページのイラスト・会長似顔絵に存在感

和泉市は、PTA 協議会の部・小学校の部・中学校の部の3部門で受賞。和泉市 PTA 協議会は、3年連続金賞の後の銀賞受賞を経て、今回「金賞」に返り咲きました。B4 縦版 12 ページのうち 10 ページが各中学校区 PTA の紹介記事です。「各校区で工夫された活動が紹介され、各校園の情報交換の場となる紙面」となるよう各中学校区の広報委員の代表が原稿を持ち寄っています。全ページカラー印刷も定着してきました。特に郷荘中学校生徒作成による表紙のイラストは、登下校見守りの場面が親しみやすいタッチで描かれています。PTA 協議会会長の似顔絵も存在感を放っています。和泉市 PTA 協議会キャラクターが正式に「イズともザウルス」命名されて決定しました。「すべての保護者に単位 PTA・和泉市 PTA 協議会の活動を知ってもらうきっかけづくりになれば」という思いのこもった紙面です。

銀賞「つくし」 貝塚市 PTA 協議会

親しみやすい「つくし」4年連続入賞

銀賞・銅賞・銅賞に続く4年連続受賞。柔らかな印象の題号通り、優しく親しみやすい紙面です。それぞれの学校園の紹介記事が丁寧につづられ、特色や課題が紹介されています。「笑顔と感謝にあふれた」「笑顔キラキラ」「明日も行きたい♪ みんな大好き♪」—工夫された見出しが記事を引き立たせています。PTA 協議会ロゴマーク完成の記事も素敵です。作成者の方からのお礼メッセージが、取り組みの暖かい雰囲気を醸し出しています。「ながら防犯」はじめませんか?—啓発的で好感度の高い記事ですね。「子どもとスマホの安心安全な関わり方」(スマホ使用についてのアンケート調査)は、中学生・小学生・幼稚園児のそれぞれの年代に寄り添ったアンケート調査です。読者に判断する材料を提供するという広報紙の基本に忠実な編集だと思います。

《WEB 部門》

金賞 東大阪市立長堂小学校 PTA

運営委員会の議事録「ちょうどう PTA だより」

5月の運営委員会報告、夏イベント号、冬イベント号、3月の年間振り返りを掲載。さらに PTA 組織について、役員・委員のアンケートを詳細に取り上げておられます。「ここが知りたい PTA」などの記事が充実しています。学校行事や PTA のイベントを中心に PTA 活動がどのように地域や保護者とつながっているかを認知してもらうことを目指しておられます。

銀賞 泉大津市立穴師小学校 PTA

広報紙との役割分担を明確に

印刷物の広報紙との役割分担をはっきりさせています。PTA の実際の活動内容は、Web 版の PTA だよりに掲載されています。「PTA」という言葉の持つ負のイメージを払しょくするため、昨年度は視覚的に「明るさと気軽さ」をテーマに、今年度は「シンプル」をテーマに作成されました。PTA は、シンプルに「子ども」と「学校」と「保護者」をつなぐツールであるとの思いが込められています。

大阪府 PTA 協議会
広報紙コンクール《ワンポイントアドバイス》&広報紙講習会資料

2024/5/11 Sat. たかつガーデン オリーブ
広報紙アドバイザー 立石 隆則

1. 大阪府 PTA 協議会主催の広報紙コンクールについて《意義》

- ✓「啓発と普及」「交流重視」・・・お互いの取り組みを持ち寄り、学習する
- ✓府 PTA 協議会がお勧めする広報紙作品を明らかにし PTA 活動としての広報委員会活動を啓発し普及する。よって選出される作品は大阪府 PTA 協議会一押し、お勧めの作品となります。
- ✓日本 PTA 全国協議会主催 小中学校広報紙コンクール都道府県予選を兼ねています。

2. 優れた紙面から学ぶ

1. 報道性に優れている紙面

- 学校・子どものことが良く分かる、PTA の動き・様子がきちんとつかめる
- ・穴師小学校
- ・東能勢小中学校

2. 特集の企画が優れている紙面

- PTA 会員の興味や関心に合致している
- ・庭代台中学校
- ・桜井谷小学校

3. 編集面の習熟・工夫があり、バラエティーに富んでいる紙面

- 読みやすく、見やすく、分かりやすい
- ・吹田第一中学校
- ・野田小学校

4. 親近感・充実感がある紙面

- 主観・偏見を排して、親しみやすく読みごたえがある
- ・南横山小学校

5. 情報紙としての性格を併せ持っている紙面

- 役に立つ広報紙、保存しておきたい
- ・彩都の丘学園

6. PTA の機関紙としての役割を担っている紙面

- 保護者（PTA 会員）を広く強力に組織する
- ・上野芝小学校

3. PTA 広報紙の到達点

- ・泉大津市立穴師小学校 PTA
- ・吹田市立吹田第一中学校 PTA

4. PTA 広報紙の現状—打開のカギは

《広報紙の現状》

- ・「広報紙は、子どもたちと親と学校、地域という最もつながりにくい関係をつなぎます。また、文字と写真、イラスト、レイアウトという手作りの技術でそれらを表現し、その上、成果物（広報紙）としばし対

峙する喜びを与えてくれます。人間らしい交流を体験させてくれる癒しの存在。ますますなくてはならない媒体なのです」(広報紙コンクール選定委員フリージャーナリスト 細見 三英子先生)

・地域ごと学校ごとの特色を反映させることはPTA 広報紙作成の醍醐味です。

・一方、広報紙の「二極分化」や学年進行につれてPTA 活動は「仕事がないことが売りになる」傾向もあります。本コンクールへの出品数の減少傾向を見ても、PTA 活動としての広報委員会に課題があると思われるし、コロナ禍での行事が抑制される中、報告型広報紙の行き詰まりが鮮明になった一面もあるのではないのでしょうか。

・この点についても細見先生は、「広報紙作りも、みんなが頻繁には集まれないという状況の中で試行錯誤が始まりました。中でも励まされたのは、次のような担当者の決意でした。『大切な人たちに思いを伝えたい、の一心で作ったら、従来より発行回数が増えた』とか、『A4判での発行を試したら、けっこう手軽で早くて、広報紙がシリーズ化できた』とか、『安心を届けるというスローガンを掲げて制作にあると、広報紙の目的や内容がシャープになったように思う』という声が多くありました。必要は発明の母、あるいはピンチはチャンス、とはこういうことでしょうか。さて、ともすれば行事や運動会の写真に偏りがちな紙面の中で、あえて毎号、心にしみるアンケートを実施し、結果を円グラフにして読ませる紙面を作った小学校は見事でした」と一昨年(令和3年度)の広報紙コンクール講評で触れられています。

《打開のカギ》

1. 「広報委員は読者の代表」⇒自分が読者として読みたいものを追求。

2. 前年通り、今まで通りをやめる。

⇒例えば、挨拶文をインタビューに変え、発行時期と回数を見直す。運動会にはドキュメンタリー風の記事を。新しい企画やチャレンジで、報道性・企画性・親近感(親しみやすさ)を高める。挨拶・報告中心の紙面、依頼原稿ばかりの紙面から脱却して特集記事を積極的に。→PTA 会員の興味関心に寄り添うことに。

→ 読みやすく、読みたいものを 手作り

3. 課題は「一生懸命作っていることが伝わる表現力」

⇒楽しい広報委員会を組織。委員さん一人一人の持ち味を引き出す取り組みを。

(ICT の活用に堪能な人、イラストが得意・絵心のある人、顔が広く社交的な人、様々な持ち味を発揮してもらおうことが肝要)

⇒見出し・記事・写真のバランス 表現力を高めましょう。写真をたくさん載せるだけでは紙面が平板に
→紙面の変化に重点を置く。

→ 記事を象徴する見出しを考え抜き、象徴する1枚の写真を選びぬく

新聞の編集レイアウトの基本

①全体をイメージしバランスよく

集めた記事を紙面に割りつけることを編集レイアウトと言います。新聞づくりは、最初に紙面全体の出来上がりのイメージがなければうまくいきません。

文字ばかりという印象にならずに読みやすくする本文文字量は、紙面の50%~60%程度。題字と題字下、見出し、写真、図表、カットまんが、ケイ線などが結構なスペースを占めます。新聞は速読が基本ですから、文字情報量と見栄えのバランスが大切です。

縦書きの新聞は、右上から読み始めるので、1ページ目の右上がトップ記事。編集者が一番大切だと判断した記事をトップに置きます。2番手はトップに続く中央から左下へ向かう記事。3番手は左上、4番手は右下となります。

②新聞は3度読ませる

読者が紙面を手にしたとき、真っ先に視線に飛び込んでくるのが見出しです。見出しから、何が書いてあるのかを知り、読んでみたいなど関心を持ちます。見出し文字は目立つよう、スペースを取って大きくし、書体（フォント）、線の太さ、位置取りなどをさまざまに工夫します。

次に読者はリード（前文）を読んで記事全体の概略、要約、結論を知ります。トップ記事や長い記事につけると効果的です。

一般に、リードには「通し組み」という技法を使います。たとえば1段が11字詰めの基本組みなら2段以上を取り、字詰めを増やして書きます。さらに天地左右に空きを設けたり、線で囲んだり、書体を変えるなどして、本文記事と区別します。

読者は見出しとリードに導入されて、さらに本文を読み、詳しい内容を知るのです。

③レイアウトは押さえて流す

新聞のレイアウトは「隅から、端から、下からつくる」のが基本です。連続もの、連載など定位置に置くもの、四角にまとめたハコもの（箱物）を周辺に置き、最後に右上から左下にトップ記事を流していきます。このような新聞レイアウトの基本的な方法を「押さえて流す」と言います。

ポイントとなるハコものには主に、タタミとカコミがあります。

見出しづけは編集の真髄

ふだん新聞を読むとき、何気なく見出しから読み始めます。大きい文字で書体もいろいろ、背景に模様がつけられていたり、紙面上でたいへん目立つ存在ですから当然でしょう。見出しだけ読んで、本文を全部読んだ気になってしまうことさえあります。

読者の視線と関心を引き付け、読む気を起こさせ、本文の内容を知らせる——見出しの果たす役割は絶大です。

紙面を作る側からすれば、見出しづけは、読まれる紙面に仕上げられるかどうかの分かれ目でもあり、編集作業の真髄と言ってもいいほどです。

①記事がそこから始まる目印

本来、見出しにはどのような役割があるのでしょうか。

まず第1に見出しは、そこに記事があること目印だということです。読者は見出しがある場所から新しい記事が始まることを知ります。もし見出しがなかったら、どこからどこまでが1本の記事なのかわかりません。つまり、どんなに短い記事にも見出しをつけるのが鉄則です。

②内容を凝縮し読む気にさせる

第2に、記事の内容を要約し、一目でわかる、読む気を起こさせる、という役割です。見出しが読み手の関心を引きつけなかったら、せっかくいい記事でも読まれない可能性があります。その記事で読者に伝えたい最も重要なポイントを短い言葉で書いたのが見出しです。

見出しのつけ方

- ①名称よりも内容
- ②複数の見出しでメリハリつけて
- ③基本形をもとに自由に表現

○主（本）見出し

記事の最も重要な内容、要素をズバリ言い切る。最低限これ1本でも成り立つ（7～9文字が適当とされる）。

○柱見出し

「〇〇〇について」のような全体の概要、テーマ、表題を示すもの（10字前後）。柱見出し1本だけではそっけない。

○肩見出し

主見出しの肩にかけるようにつけ、記事内容の特色を表現（8字前後）。

○ソデ（脇）見出し

主見出しの次にくるもので、副次的要素を表現する（9～11字）。

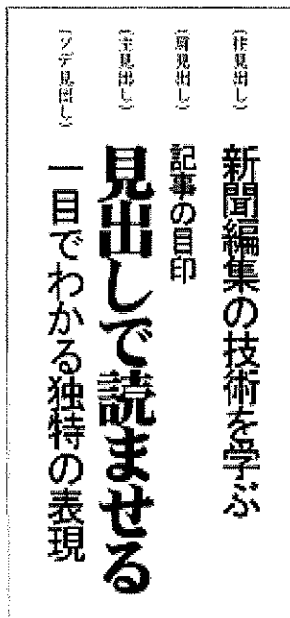
○小見出し

本文中に本文文字より少し大きく太い文字で入れる（10字前後）。とくに長い記事の場合、読んでもらうには欠かせない。

④短く、わかりやすく

⑤客観見出しと主観見出し

見出しの基本形



チドリにすると
優しいイメージ

2行見出しは
字数そろえて

表情や動きのある写真に

写真1枚が伝える情報の豊かさと臨場感は、100行の文章よりもよほど説得力があります。編集者は、紙面企画の段階から、どんな写真が効果的で相応しいか考えましょう。

人物写真では、表情や動きをとらえられるよう、できるだけ近づいて撮ります。会議や集会の写真は動きがないので、参加者が笑ったり、拍手をしているタイミングを狙いましょう（難しいのですが）。

頭の部分はカットすることもあります。あごの部分を切り取ると誰の顔かわからなくなってしまいます。「頭は切ってもアゴは切るな」が原則です。

カメラマンはどんな紙面企画の写真なのかを意識しながらも、どんな紙面にも使えるように、さまざまな場面、角度から撮っておきましょう。

必ず写真説明を載せる

紙面レイアウトではまず、写真を配置してから記事を流します。

写真を何枚も載せる場合、どれも同じ大きさにするのではなくメリハリをつけた方が効果的です。メインの写真は大きく、左上または中央部に配置し、他は小さめにバランスよく置きます。大きな写真を下に置くと、重たい印象になります。

伝えたいテーマをより鮮明にするために、ときには写真をトリミングして必要な部分だけクローズアップします。

写真には写真説明をつけるのが鉄則です。何の場面か、誰が写っているのか、さらには本文にない補足説明を書くと、より多くの情報が伝わり、充実した紙面になります。実は、見出しと同じくらいよく読まれるのが写真説明なのです。

埋めぐさカットはダメ

イラスト、カット、漫画も目立つ存在です。写真のようなリアルなインパクトはないものの、紙面を柔らかくして、親近感を持ってもらえます。

レイアウトはできるだけ上部に、見出しと組み合わせると効果的です。記事の最後、空いたスペースに埋めぐさのように使うのはよくありません。記事の末尾を目立たせるのは逆効果で、最初の見出しに視線が集まるようにしましょう。

向きが肝心

写真やカットのレイアウトでは向きが肝心です。向いている方向が紙面の中央（カコミ記事ならカコミの中央）に向くように注意しましょう。紙面の右端に置くなら左向きの写真、左端に置くなら右向きの写真にします。その逆に紙面からそっぽを向いてしまうと、散漫な印象を与えてしまいます。

※参考文献

- ・全国小・中学校PTA広報紙コンクール優秀広報紙集 日本PTA全国協議会
→大阪府PTA協議会へご照会ください。
- ・朝日新聞の用語の手引き 朝日新聞出版 朝日新聞社
- ・なるほどデザイン MdN コーポレーション 筒井美希
- ・活版印刷三日月堂 ポプラ文庫 ほしおさなえ
- ・隠蔽捜査9.5「審議官」 新潮社 今野敏
- ・隠蔽捜査10「一夜」 新潮社 今野敏

【広報紙作成上のどんなことでもご相談ください】

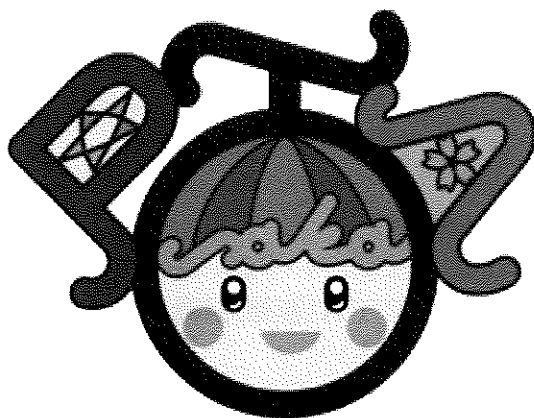
◎お問い合わせはどんなことでも・・・大阪府 PTA 協議会事務局

〒534-0025 大阪市都島区片町 2-2-40 大発ビル 301

TEL : 06-6949-8300 / FAX : 06-6949-8301 e-mail : tunagaru.fu.p@osaka-pta.jp へどうぞ。

◎立石隆則に直接ご連絡くださる場合は・・・e-mail:ritsuyan0225@gmail.com へメールください。(お返事しますのでドメイン拒否設定を解除しておいてください)

※編集上の困りごとのご相談をお受けします。広報紙全般に関するアドバイスも行います。お気軽にお問い合わせください。学校や地域に出向いての講習会も行います。ぜひご相談ください。



大阪府Pキャラクター「ピタマル」

大阪府PTA協議会 事務局

(開局時間:平日 10時~16時)

〒534-0025

大阪市都島区片町 2-2-40 大発ビル 301

TEL:06-6949-8300 FAX:06-6949-8301

E-mail:tunagaru.fu.p@osaka-pta.jp



大阪府PTA協議会ホームページ
<https://www.osaka-pta.jp/>